

# 英語科学習指導案

指導者 山崎 学 肖

**日 時** 平成 24 年 12 月 1 日 (土) 第 1 校時 (10 : 00~10 : 50)  
**年 組** 中学校第 1 学年 2 組 計 40 名 (男子 18 名, 女子 22 名)  
**場 所** 中学校第 1 学年 2 組教室  
**単 元** 場面や状況に応じた表現を考えよう

(Unit 9 ケーブルカーに乗って *NEW HORIZON English Course 1* 東京書籍)

## 単元について

本単元は、さくら達がアメリカのサンフランシスコを旅行する中で、様々な場所を訪れる内容である。そこでは、街や人々の様子を描写したり、乗り物の乗り方について指示したりしている場面が多く含まれている。描写するという活動は、学習指導要領にもある「情報を伝える」という言語活動の中に含まれており、スピーチや説明活動につながる大切な活動である。また、次単元では観光案内が主要な言語活動となるので、本単元で学習した表現も活用することができる。そして中学校の最終段階として考えている英語でものごとを説明する力を高めるための活動の一部として、重要な役割を果たす内容である。

また本単元においては、描写するために必要な現在進行形を学習する。現在進行形は、小学校英語活動で扱わない内容であるが、日常の会話の中や、ALT からの指示の中に多く含まれる表現である。また形式についても、不規則な変化はあるが、意味を伴った変化であることから理解することもあまり困難さを感じない言語事項である。加えて、現在進行形を使用する場合の多くは動作動詞を用いる時であるため、実際に身体を動かしながら学習できる利点があり、小学校英語活動の学習様式と似たような活動を設定することができる。しかしながら一般的な指導における課題としては、生徒の混乱をさけるために現在進行形は動作動詞のみしか使えないと指導することが多いことである。実際の言語使用場面では、特定の状況や場面においては状態動詞も使用できる可能性をもっている。言語使用では、場面や状況によって言語事項を使い分けることが求められるので、状況や場面における文法項目の選択や使用について生徒に考えさせることができる単元である。

本校 1 学年生徒は、小学校英語活動を全員が経験しているため、英語に対する抵抗感をあまりもっていない。4 月当初に行ったアンケート結果では、全体の 7 割の生徒が小学校英語活動に対して肯定的な意見を持っているが、中学校の授業に対する不安感は 7 割の生徒が抱いている。また、小学校英語活動が好きだった理由としては、「ゲームが面白かった」「外国の人と話をすることが楽しかった」など主に活動自体の面白さが中心となっていた。反対に小学校英語活動が嫌いだった生徒の理由としては、「何をやっているのか分からなかった」という意見に代表される理解できないから嫌いであるという意見がほとんどである。

また授業中には、自分が知っている英語表現を用いて積極的に話をしようとする場面が多く見られる。中には、ジェスチャーや表情を加えながら相手とコミュニケーションを図ろうとしている生徒もおり、英語を使うことに対しては意欲的な生徒がほとんどである。しかし、英語を理解する授業や表現の使い方に関する授業 (リーディングや文法学習) においては、状況や場面を文章から読み取ることが難しかったり、日本語の意味に焦点をあてすぎた間違った文法 (例えば、be 動詞は「～です」という意味であるなど) を活用したりする生徒もおり、状況を考えて表現を選択することには課題がある。

したがって指導に関しては、小学校英語活動とのつながりを考えて、初めにオーラルイントロダクションや英語でのやりとりを用いた導入を行い、コミュニケーションの場面を示しながら、文法形式に焦点があたるようなフォーカス・オン・フォーム<sup>\*1</sup>の手法を取り入れる。生徒は今まで学習した内容を用いて内容を理解したり推測したりするが、その中で理解できないものや新しい表現があることに気づくように教

師の発問や教材を工夫する。また、現在進行形の基本的な用法について身体を使いながら学習するとともに、状況や場面によって異なる使い方をすることを、文章の読み取りや既習事項との比較を通して理解できるように指導する。

表現の練習方法では、パターンプラクティスやチャンツなど複数の方法を用いて練習することで生徒の意欲を持続できるようにする。オーラルを中心に指導する際には、リキャスト<sup>\*2</sup>の手法を用いて英語でのやりとりの中でも、形式に注意を向けるような指導を行う。最終的なゴールは、状況や場面に応じて現在進行形を用いながら描写することなので、練習の中にも状況や場面設定を考慮しながら指導することで、徐々に現在進行形の使い方について理解を深めることをねらう。

\*1 意味の伝達を中心とした言語活動において、教師が必要に応じて学習者の注意を文法などの言語形式に向けさせる指導。意味重視のコミュニケーション活動に文法指導を効果的に組み込もうとする指導理念であって、文法だけを集中的に教えようとするものとは異なる。

\*2 生徒の発話で間違いがある場合に、直接間違いを正すのではなく、教師が正しい表現を繰り返す言い、生徒にそれを気づかせる指導方法のことである。

## 指導目標

1. 間違いを恐れずに絵、写真や動画などについて英語で描写しようとしている。
2. 絵、写真や動画などについて既習事項や現在進行形を用いて、英語で描写できるようにする。
3. 現在進行形や否定命令形、be 動詞から始まる命令形の形式、意味、用法を理解できるようにする。

## 指導計画

1. 現在進行形の形式、意味、用法を学ぶ（肯定文、疑問文、否定文）・・・・・・・・・・ 3時間  
(本時はその3時間目)
2. 否定命令形、be 動詞から始まる命令形の形式、意味、用法を学ぶ・・・・・・・・・・ 2時間
3. 絵、写真や動画などを描写してみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

## 本時の目標

場面や状況に応じた現在進行形の用法の違いを理解することができる。

## 「学びのつながり」の視点

生徒は小学校英語活動の学習方法と同様に、最初は口頭で表現を練習することで使い方に慣れ、その後に既習言語事項を用いた英文の読み取りや描写活動に取り組む。意味のある情報のやりとりを通して言語事項の意味と形式に焦点があたり、生徒が状況を頭の中でイメージすることができる。その時に生徒は自分が有している知識が通用しない場面があることを認識することで、状況や場面に応じた使い方が存在することに気づくのではないかと考えている。このように、ある状況をともなった文章から細かい英語表現を見ることで、生徒が言語形式に焦点をあて、自ら言語形式の特徴に気づくことが英語学習における「足場づくり」になると考える。

## 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (◆評価)
1. Warm-up (10分)	○フォニックスのルールを意識できるようにする

<p>□フォニックスを用いた単語の発音練習をする。 （個人練習から全体練習へ）</p> <p>□英単語をビンゴシートに記入する。</p> <p>□教師の発音を聞いて、リピートしながらビンゴゲームを行う。</p> <p>2. Review （10分）</p> <p>□教師の英語の質問について英語で答える。</p> <p>□英問英答のワークシートに記入する。</p> <p>3. Introduction （7分）</p> <p>□英文を聞いて、リスニングポイントを答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の人物は何をしているのか？</li> <li>・車を洗っているのは誰か？</li> </ul> <p>4. Practice （20分）</p> <p>□聞き取った内容をメモ参考に英文で再現する。 （ディクトグロス活動）</p> <p>□作成した英文を全体で確認する。</p> <p>□教師の質問に対して考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“He is standing near his house.” はどういう日本語の意味になるだろうか？</li> <li>・なぜこのように現在進行形を使うのだろうか？</li> </ul> <p>5. Consolidation （3分）</p> <p>□本時で学習したことを、自分の言葉でまとめる。</p>	<p>ために、個人練習から全体練習へと繰り返して練習する機会を設定する。</p> <p>○音と文字の一致をできるようにするため、発音が難しい単語については、全体で取り上げて指導する。</p> <p>○前時の復習にあたる活動であるので、絵や写真を見ながら、英語で表現できるように指導する。</p> <p>○表現を思い出させるために、口頭練習から書く練習に段階を踏んで学習できるようにする。</p> <p>○既習の文法事項を想起させるために、リスニングポイントは現在進行形に焦点があたるように留意する。</p> <p>○リスニングだけでは理解できない生徒がいるので、視覚的に支援することで生徒が状況を理解できるようにする。</p> <p>○自分で考えても分からない生徒を支援するために、ペアなどで英文を再生するよう指示する。</p> <p>○各生徒が再生した英文を確認する時には、各生徒が何を間違えたのかを確認できるように、ペンの色を変えて書くように指示する。</p> <p>○状況から英文の意味が推測できるようにするために、英文全体を何度も読んで考えるように指導する。</p> <p>○英文の違いが分かるように、現在形と現在進行形を比較しながら、使い方がどのように違うのか考えるよう指導する。</p> <p>○クラス全体で考えた意見を交流することで、自分では気づかなかった視点を共有するように指導する。</p> <p>◆状況に応じた現在進行形の用法を理解する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【言語・文化に関する知識・理解】</b></p> <p>○本時の学習を振り返ることができるように、自分の言葉で分かったことや考えたことを書くように支援する。</p>
--	--

**参考文献**

白畑和彦 『英語教育用語辞典』 大修館書店 2009.